

発見! おごおり遺産

はか た みち おお ほ みち
No.4 博多道と大保道

前回まで、市内を縦横に走る江戸時代の街道を中心に紹介してきました。今回は、街道よりもさらに人々の生活に密着した地域の道を紹介します。



小郡カトリック幼稚園前の大保道の風景



御勢大霊石神社



小郡町を基点とする博多道と大保道

現

在、小郡市の中心である小郡町は、江戸時代前期の17世紀中頃に形成され始めました(7月1日号 No.2 参照)。その後、国境の町として大きく発展し、天明4年(1784)には200軒余りの家々が軒を連ねたと記録があります。当然人々の往来も多く、町の中心を東西に走る彦山道は、多くの旅人で賑わいました。

一方、当時南北の幹線道路だった長崎街道や薩摩街道、旧筑前街道は、小郡町から離れた場所にあつたため、博多や小倉に向かうには、どこかでこれらの街道に乗ることが必要でした。

小郡町とこれらを結んだのが、博多道と大保道です。博多道は祇園神社の東沿いを北に進み、やや北西に進路を変えて、大原中学校の西側から陸上自衛隊小郡駐屯地西沿いを通り、基山で長崎街道と合流します。当時、この道は小郡の人だけでなく、基山の人も大いに利用したようです。江戸時代中期に書かれた「基養政鑑」には「小郡町の品物が安く、基肆の人々が買いに行くので禁令を発した」と記されています。

大保道は博多道から約70m東を基点

とし、小郡中央保育園の東沿い、小郡自動車学校の西沿いを北東に進み、大原小学校の東側で旧筑前街道と合流します。この道は、幅も含めて非常に残りが良く、当時の雰囲気を感じることが出来ます。

江戸時代にこの大保道を通った著名人がいます。日本全国を歩いて測量し、『大日本沿海輿地全図』を完成させた伊能忠敬です。彼は文化9年(1812)の2月と10月の2回に渡って市内の街道の測量を行いました。日記によると、一行は10月1日に松崎宿に泊まり、翌朝、彦山道を西に測量しながら大崎から旧筑前街道を北上し、大保の御勢大霊石神社を訪れました。ここで市内の測量を終えた一行は、大保道を南下したと考えられ、小郡町の「平八」と「嘉兵衛」宅に宿泊しました。

市内の街道は、他にもケンペル、吉田松陰、河井継之助、乃木希典など、江戸から明治にかけての多くの著名人の日記に登場します。彼らに思いを馳せながら道を歩くと、見える風景も違ってくるかもしれませんね。

問合せ先 文化財課 ☎ 75・7555

おごおり遺産とは?》》近年の市内調査で「再発見」した文化遺産＝市民のたからのこと